

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	マカロンにしの台		
○保護者評価実施期間	2024年11月1日		～ 2024年12月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38名	(回答者数) 22名
○従業者評価実施期間	2025年2月20日		～ 2025年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数) 12名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月27日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	施設の構造	・特徴的な広いフロアを使った、大きな動きの出来る活動も積極的に盛り込んでいる。	・玄関から入った際、パーテーションを用意し視覚的な刺激を減らし、到着後からの動きをスムーズに取り組めるようにしていきたい。
2	活動プログラムの立案に対する考え方	・児童のモニタリングやアセスメントから、必要な課題を随時考えている。他の施設の取り組みをSNS等からキャッチし、スタッフの得意な分野なども融合することで、より子どもたちに合わせた活動作りに厚みを持たせている。	・将来的なスタッフの人員等も考慮し、活動案を考えやすい雰囲気づくり、意見を出しやすい雰囲気づくりに努めていく。 ・連携や共有方法に関しても都度適切な方法を考えていく。
3	保護者との情報共有	・面談や送迎での引き渡し時も含めて、学校や家など、スタッフが見えない部分の様子も共有し、放デイの様子と合わせて計画案等に落とし込んでいる。	・細かい変化に気づき保護者に伝達するためにも、日頃からのスタッフ同士の情報共有を最新の状態にアップデートしていく必要がある。また、今出来ること、これから伸ばしていくべきところなど多くのスタッフに関わり、たくさんの視点で捉えていくことが必要。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域連携	・災害等があった時のためなど、地域に対して開けた存在であるべきではあるが、地域住民を交えた活動を企画することは現状出来ない。また、地域の児童クラブなど同世代の子たちとの関わりの機会に関しても現状具体的な取り組みには至っていない。	・会社としての地域に対する立ち位置の検討機会を作り、まずは地域に向けてどういった施設づくり、関係性づくりをしていくかの方向性を決めていくことが必要となる。
2	第三者による評価体制	・第三者による評価をしてもらう機会が少ない。	・普段勤務しているスタッフだけでは、現状の支援が当たり前という認識になってしまうことが多いため、別の視点からのアドバイスや考え方を通して、支援力や意識の向上に役立てる。
3	父母会やきょうだい児の会など親御さん同士の交流機会等の企画	・保護者同士の交流を主とした機会の開催は出来ない。	・昨年からの取り組んでいる保護者を含めた年1回のイベントを定期開催のイベントと考えて、少しの時間でも保護者同士の交流が出来る機会の捻出を考える。 ・まずは開催するべきニーズが保護者にあるのかのアンケートから取っていく必要があると思う。